

小川村木質バイオマス利用計画策定事業 業務委託仕様書

1. 業務の名称

小川村木質バイオマス利用計画策定事業 業務委託

2. 業務の目的

当村では、地域の貴重な生態系を保全しながら、森林資源の持続的な利活用の仕組みを構築し、より豊かで住みやすく、循環型・低炭素社会の全国的なモデルとなる村づくりを目指している。

現在、低質材の活用を推進する取組を「おがわ森の恵みプロジェクト」として位置付け、村内に C 材ステーションを開設し、森林整備等で発生した C 材の受け入れを行っている。C 材ステーションの運営は「一般社団法人小川村農林公社みらい」が実施し、原木受け入れ・薪製造を行って、乾燥させた薪は村内の温浴施設「おがわの湯」に設置された薪ボイラーへ供給している。

これらの取組をさらに拡大を推し進めるため、引き続き村内の熱需要施設に木質バイオマスボイラーを導入し、森林整備を促進と当村の資源を持続的に活用する仕組みを構築する。本事業では、これらの仕組みの構築のための方策について具体的に検討して取りまとめ、「小川村木質バイオマス利用計画」を策定する。

3. 業務の内容

(1) 森林整備・村民による間伐材搬出促進の調査

● 森林概況の調査（素材生産業者へのヒアリング等）

当村の森林資源状況について、所有形態や樹種等の分類ごとに、詳細な資源量および齢級構成を把握する。また、素材生産業者へヒアリングを行って、現在の森林整備状況を把握し、当村の森林整備について将来的な考察を行う。資源調査およびヒアリング結果をもとに、整備すべき森林およびその分布状況を把握し、視覚的に図化して整備の優先度の高い森林を示す。

● 村民参加型の搬出促進策の調査

現在の村民による木材搬出活動の状況を調査し、搬出量拡大のための方策を検討する。村民自らが木材搬出を行う際の手順や、必要となる設備・技能について調査し、全国の事例研究をもとに、当村で実施可能な取組方法を提示する。

(2) 木材のバイオマス燃料加工方法の調査

● C 材ステーションに収集される木質バイオマス資源量の調査

当村の C 材ステーションへの原木搬出量を調査し、木質バイオマスとして活用できる資源量を把握する。現在の村内での C 材搬出における課題を整理するとともに、将来的に C 材搬出量を増大するために必要な取組み方策を提示する。

● 各種木質バイオマス燃料の製造方法・製造コストの調査

現在の C 材ステーションでの薪製造コストを事業者へ確認するとともに、他の木質バイオマス

燃料（チップ・ペレット）も含めて、村内で燃料製造する場合の最適な製造設備、運用方法を示し、それぞれの製造コストについて試算を行う。

- 周辺地域でのバイオマス燃料製造事業者の生産量・コストの調査

小川村周辺地域での木質バイオマス製造事業者の生産量、製造コストを把握する。

（3）村内の公共施設でのエネルギー利用実態調査と最適施設の選定

- 各種施設へのエネルギー利用現況調査と木質バイオマス設備導入時の採算性試算

村内公共施設での現在のエネルギー需要をもとに複数の有望施設を調査し、各施設に木質バイオマスボイラーを導入した場合の採算性や地域への波及効果を試算する。

- 最適な公共施設の選定と必要となる木材量の試算

試算結果をもとに木質バイオマス利用設備の導入による事業性が確保できる施設を選定し、燃料の種類および必要となる燃量を試算する。

- 有望1施設への木質バイオマス設備導入の基本設計の作成

検討施設のうち、数年内に木質バイオマス設備の導入が有望と思われる1施設について基本設計を実施する。

（4）木質バイオマス利用計画の取りまとめ

- 調達・加工・消費までの木質バイオマス利用の仕組みの検討

調査結果をふまえ、村内での木質バイオマス調達・加工・消費までのスキームについて効率的かつ持続的な計画を検討する。将来的な木質バイオマス需要の拡大効果が高い計画とするため、ソフト・ハード面から多角的な検討を行う。

- 木質バイオマス利用の課題整理及びスケジュールの策定

当村の木質バイオマス利用における課題を整理し、解決策を提案する。また、具体的かつ確実な木質バイオマス利用普及拡大のための方策を提案し、具体的な施設への導入も含めたスケジュールを計画する。

4. 業務期間

平成 29 年 8 月中旬 ～ 平成 30 年 1 月 31 日